

令和7年度出雲地域保健医療対策会議 議事概要

【日時】令和8年3月23日（月）13時30分～15時30分

【場所】出雲保健所 大会議室

【出席者】委員 17名 事務局10名 計27名

【 主な意見・協議結果 】

1. 第8次島根県保健医療計画に沿った対応状況について【資料1】
2. 令和7年度の各団体・機関における取組について【資料2】
3. 出雲圏域における重点施策について【資料3】
4. 地域医療構想の方向性について【資料4】

<意見>

■ 令和7年度の各団体・機関における取組

- ・ 地域の限られた社会資源の活用が重要であり、薬局においては医薬品の在庫管理・把握が可能な共通システムを導入し、個々の問題から地域全体での対応・仕組みを検討。併せて高額医薬品のロスが少なくなるような情報共有にも努めている。
- ・ 各関係団体ではが就労可能な年代が延長した影響もあり、会員数や育成講座受講者が減少しており、ボランティアや任意団体の活動継続が難しい。
- ・ 団体・組織活動においては、会員自身が楽しめる、この地で生活してよかったと感じられる活動を心がけている。
- ・ 医療介護分野での人材不足も顕著であり、出雲市では海岸部を中心にオンライン診療の実証実験に取り組み、来年度から本格実施へ移行。また、サービス事業者が山間部等へ訪問する負担も大きく、独自支援を実施・検討している。

■ 出雲圏域における重点施策について

① 健康増進課：健康寿命延伸、健康づくり、医療的ケア必要児への支援

- ・ 脳卒中予防として減塩や野菜摂取を啓発しているが、摂取量が見える化できるツールなどを用いると指導効果が得られやすい。
- ・ 口腔ケアが、糖尿病や骨粗鬆症だけでなく循環器疾患など幅広い全身疾患と関連深いことの啓発に取り組んでいる。
- ・ 医療的ケア必要児の支援には幼保と園医の連携が不可欠であり、連絡会を立上げ情報共有に努めている。

② 心の健康支援課：精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム、自死総合対策

- ・ 自死予防対策として自死予防週間にあわせて啓発活動を実施しているが、今年度は、主に若い年代をターゲットとするため、出雲市駅でのキャンペーンを行った。
- ・ 1年以上の長期入院患者はグループホーム整備等で退院者が増えているが、65歳以上となると介護領域になり、施設職員やケアマネの理解も必要。

- ・ 精神保健福祉領域は本人よりも家族が困って相談につながることも多く、こころの健康相談等の場を活用し、今後の対応を相談することも有益。

③ 医事・難病支援課：医療機能分化や連携促進

- ・ R8 年度診療報酬改定では、急性期からの退院支援がより重要となり、役割分担を図りながら後方支援病院との連携強化を進める。
- ・ ACP については、施設入所者への対応、出雲市作成「あんしんノート」の活用、主治医の負担軽減などを検討する「出雲市 ACP 推進チーム」が立ち上がっており、多職種での意見交換や研修開催などに取り組まれている。また、救急搬送時に ACP の方針が共有出来ないことで苦慮する事例も生じている。
- ・ 難病患者家族会の入会者・参加者は限定的で、会費徴収や活動継続が困難となっている。後継者不在、役員でも外出に支援が必要な場合も多く、患者家族会の活動を再考する必要がある。

④ 衛生指導課：食品等の衛生管理、健康危機対処計画に基づく感染症対策

- ・ 麻しんが流行する中で一番有効なのはワクチン接種。対応の確認等も必要。